



ありがとう、ロータリアン！ ②②

## 夢、叶うまで挑戦



UNICAL KIDS GARDEN 園長

ラクナース・ガマゲ さん

出身：スリランカ

奨学期間：1993 - 95

学校名：山口大学

世話クラブ：宇部西R C

### 大学合格よりうれしかった奨学金の合格

私が高校を卒業した1980年代後半、母国スリランカでは内戦や反政府学生運動が盛んで、試験に合格したものの大学に進学できる状況ではありませんでした。幸い、日本に留学中の叔父がいたため、日本で勉強できるチャンスをもらい、山口大学工学部に留学しました。

学費や生活費の一切を自分で賄わなければならず、早朝や夜に、観光ホテルでアルバイトをする毎日でした。少しでも勉強時間を確保したいと、米山記念奨学金に応募しました。選ばれたときは、本来の目的にようやくたどりつけた気がして、大学に合格したときよりもうれしかったことを覚えています。

世話クラブ・宇部西ロータリークラブ（R C）の例会では、若輩の私の話を皆さんが真摯に聞いてくれることに感動し、謙虚で、向上心の強い日本人の気質を肌で感じました。1年目のカウンセラーの故・清水信雄氏には、社長になるための心がけなど、いろいろなアドバイスをいただき、2年目の吉本賢良氏（1998年退会）には、日本でしっかり勉強し、母国で働く意義を教わりました。お二人には家族の一員として接してもらい、私もお父さん、お母さんのように慕うことができました。日本での生活を支えてくれたロータリアンの皆さんに、今も感謝の気持ちでいっぱいです。

### 日本人のように責任感のある人を育てたい

奨学金の面接試験で、私は「日本で5年働いたら、

帰国して、母国の発展に力を尽くします」と約束しました。その言葉通り、卒業から5年後、家族を連れてスリランカに戻り、電気電子関係の会社を設立しました。しかし、会社は軌道に乗らず、約2年で自然消滅。自分の経験不足が原因ですが、今の仕事につながる転機にもなりました。

私は日本で暮らす中で、正直であること、約束や時間を守ること、信頼されることなど、“人格形成”が最も大事だと気づき、自分を磨く努力をしました。ところが、実際に母国で起業してみると、働く人間の責任感の無さ、約束を守らず、時間にルーズなことなどを目の当たりにし、「日本人のように、責任感のある人を育てたい」との思いが強くなりました。そして、大人の教育は難しく、人格が形成される子ども時代の教育が最も重要だと確信するに至りました。

夢を実現する機会は、身近なところにありました。帰国後、4歳の娘と2歳の息子を入れた近所の幼稚園では、先生が鞭をもって勉強を教え込むという教育が行われていました。子どもの目線まで先生が<sup>かみ</sup>屈み、話を最後まで聞いてくれる日本とはかけ離れた状況に黙ってられず、「子ども一人ひとりに合ったペースで」「強制ではなく、子どもの意思を尊重して」と、園の教育に手を出し、口を出し……。子ども用のトイレと手洗い場を寄贈したのを機に、実際に園の運営に携わるようになりました。

無給で実質的な園長を1年半務めた後、経営者と方針が合わずに手を引くことにしたところ、保護者や子どもたちから「ぜひ続けて見てほしい」と強く望まれ、自宅で幼稚園を始めることになりました。

2010年1月、6人の園児でスタートしましたが、希望者がどんどん増え、現在は約100人を預かっています。自宅を改装した園舎では、それ以上受け入れることができず、今年も十数人の希望者を断らなければなりません。地域では人気の園として知られ、国の行政機関も視察に訪れるほどになりました。人気の理由は、私が日本で学んだことを生かしたからだと思います。

米山学友のラクナース・ガマゲさんは、母国スリランカに帰国後、「国づくりの第一歩は、子どもの教育」と、自宅を改装して幼稚園を始めました。開園から4年を経た現在、国の行政機関からも研究視察に訪れる、地域でも評判の幼稚園になっています。「教え込むのではなく、能力を引き出し、育むことが私たちの仕事」と、日夜子どもの教育環境づくりに努めるラクナースさんの活躍をご紹介します。



経営する幼稚園の子どもたちと

べるようになるのを見ると、とてもやりがいを感じます。子どもから学ぶことも多く、遊びの自由さ、創造性・発展性は無限で、毎日が感動の連続です。こんなにクリエイティブで、エキサイティングな仕事があるのでしょうか？ 給料には反映されませんが、幼稚園の先生は世界一、責任のある仕事だと私は思っています。いずれは、小学校の運営にも携わりたいと思います。教科書をたたき込む教育を改善し、学ぶこと、考えることは楽しいと実感できる学校、基礎学力がしっかり身につく学校をつくりたいのです。私は、10歳までの教育環境がしっかりしていれば、後はいつでも、どこでも、いくらでも学び、成長していけると考えています。

最終目標は、国を変える立場になること。これは、米山奨学生のころから変わっていません。人を育て、産業を育て、国を発展させたいと考えているからです。モットーは「夢、<sup>かな</sup>叶うまで挑戦」。これからも、夢の実現を<sup>まいしん</sup>目指して邁進していきます。

#### ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。  
TEL：03-3434-8681 FAX：03-3578-8281  
Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp

## 世界一、責任ある仕事

私たちの幼稚園では、よく「子どもは種、先生は農夫」と例えます。植物がしっかりと根を張りさえすれば、どんどん枝葉を伸ばし、きれいな花を咲かせ、おいしい実を結ぶことができるように、環境が整っていれば、子どもは自ら学び、成長していきます。子どもたちの人生の根をしっかりと張れるように環境をつくるのが私たちの使命であり、教え込むのではなく、能力を引き出し、育むことが、私たちの仕事です。

乱暴な子どもがいても、その気持ちを理解し、認めるという大人の対応によって、落ち着いて子ども同士で遊

## モンゴルに米山学友会が誕生！



海外で6番目のモンゴル学友会誕生

海外で6番目となる米山学友会がモンゴルで創立されました。3月1日に開かれた創立記念祝賀会には学友24人、日本のロータリアン9人のほか、元駐日モンゴル大使や在モンゴル日本国大使館一等書記官ら来賓を含む約40人が参加。初代会長はジャンチブ・ガルバドラッハさん（山形北RC）、副会長にはバルジンニヤム・バトゾリグさん（津久井中央RC）ほか役員5人が選任されました。ジャンチブ会長は「長年の夢をようやく実現できた。日本のロータリアンが育ててくれた学友の力を結集し、頑張って活動したい」と抱負を語りました。また、モンゴル政府から米山記念奨学会に感謝状が贈られました。